

めでいかすとる  
*Médicastre*



「 内川端 羽黒トンボのハートマーク 」

# マイペット&マイホビー

— 第 110回 —

## 趣味 ラジコプレミアム vol.1

佐久間医院 佐久間 正幸

よく聞く趣味と言えば音楽鑑賞があります。私が初めて買ったLPは「カーペンターズ」の『ノウ・アンド・ゼン Now & Then』です。高校時代は「QUEEN」が好きでしたが、当時は「KISS」派が多く肩身が狭い思いをしていました。日曜夜の「俺たちの旅」「俺たちの朝」に夢中でした。俺たちシリーズのテーマ曲は「トランザム」(ビューティフル サンデー)が手掛けていますが、番組の最後のエンディングテーマと一緒に流れる詩に感動しておりました。後にDVDを手に入れておきま。浪人時代には当時のフュージョン、クロスオーバーと言われた音楽に興味を持ち、今では死語になったラジカセでエアーチェックをしておりました。独特のフォルムのソニーのラジカセ XYZ (ジーゼット) で録音し、カセットテープは山下達郎の初ヒット曲『RIDE ON TIME ライドオンタイム』「いい音しか残れない」というCMの影響でマクセルでした。このXYZですが未だに人気があり、レストアされたものはヤフオクでは4万円以上で落札されています。大学時代は小林克也の『Best Hit USA』に夢中で、MVを見てレコード屋さんでLPを買っていました。今は無き山水のプリメインアンプ、当時は画期的な縦型のソニーのレコードプレイヤーでした。番組のオープニングでは、『Vaipour Trails (ヴェイパー・トレイルズ)』の『Don't Worry Baby / サーフ・サイド・フリーウェイ』(CD化は1999年)の軽快なサウンドに乗って、洋楽のアルバム・ジャケットがドミノ倒し風にパラパラと流れていく映像が使われていました。そのLP

の数は115枚だそうです。他の音楽の情報源は廃刊になった「ADLIB アドリブ」という雑誌でした。映画も好きで、これも今は廃刊となった「ぴあ」という雑誌を参考にて映画館に通っていました。「スクリーン」も買っていました。当時のソニーは「ウォークマン」等、時代の先端を走っていました。研修医の初っ端から、週に2、3回は御焼香というターミナルの急変が多い病棟で蘇生を頑張り、御家族から解剖の許可を頂き、解剖の際には立ち合うという生活でした。生きて行くのが精いっぱい、家にシャワーを浴びに帰り、寝るのは医局の椅子か学生室の机で寝る、食事は患者さんが造影で着替えている時間で、当時の研修医には当たり前前の生活でしたが、今ではとんでもない生活でした。他の病院に勤務していた時も、病院の敷地内か、隣の敷地に住み、風呂上りの寝る前、休日でもすぐに病棟に歩いて行ける所に住んでおりました。自分が執刀の手術ならお気に入りのCDをかけ、若い方の腰椎麻酔の際には患者さんのお気に入りの曲「プリプリ (プリンセスプリンセス)」等のCDをかけていました。

最近の私の音楽事情ですが、相変わらず多忙で集中してCDやLPをじっくり聞くという時間は無く、仕事をしながら音楽を聞くというのが日常です。LPもレコードプレイヤーも埃をかぶっていますが、最近ヤフオクで既に持っているLPを落札してしまいました。『リー・オスカー』3枚、『深町純&ニューヨーク・オールスターズ オン・ザ・ムーヴ』『ラムゼイ・ルイス テキーラ・モッキンバード』の計5枚です。出品者が同世代で他に『アールク

ルー』や『ボブジェームス』等々、欲しいものは沢山あったのですが我慢しました。

今時は『Spotify』等のサブスクで聞くのが普通なのでしょうが、ウンチクも聞きたいし、好きな曲が80、90年代になるため、FMで聞くことが多いです。以前はラジオ付きのボイスレコーダーにタイマー録音し、又は安いソフトでパソコンに録音していました。NHK-FMなら、「らじる★らじる」の聞き逃し配信で聞き、民放なら無料の「radiko ラジコ」で聞いていました。夕方に『ユキ・ラインハートのA・O・R』というお気に入りの番組がありますが、これがFM山形だと19時に終わってしまうのです。いつも19時以降はどんな内容なんだろうと気になっていました。「らじる★らじる」も「radiko」も全国の放送は聞けません。今は「ラジコプレミアム」で全国のラジオの音楽番組をオンデマンドで聞いています。登録月は無料で、その後は月額350円で全国のラジオ局が放送後1週間は聞き放題です。3つのデバイスに登録可能で、2つは診察室のPC 2台にスピーカーを接続しています。もう一つはスマホに登録して寝ながら聞くこともあります。

ここからはお気に入りの番組の紹介です。仕事をしながら、音楽番組を聞くと言いましたが、話が面白くて仕事には向かない番組もあります。ラジコプレミアムなら曜日や局名は、あまり関係なくなります。エリアは東京で検索して聞いています。同じ番組は3時間までですが、エリアが違えば同じ番組を再度聞く事ができます。

## 1. 「ラジオマンジャック」

「抜群の選曲、鮮烈な生演奏、おきて破りのコント、小粋なトーク、プロたちが本気で遊ぶ、これが究極の音楽番組！」

もっとも仕事に集中できない番組です。

NHKらしくない番組です。赤坂泰彦(DJ)、時東あみ(元祖メガネアイドルらしい、小文字のあ)、門司肇(ピアニスト)、堂免一るこ(どうめん いちるこ)、石山昭子の5人が織りなす番組ですが、非常にくだらなくて時間の無駄遣いと思う番組ですが、おもしろくて毎週のように聞いています。「ウルフマンジャクショー」の乗りです。

## 2. 「NISSAN あ、安部礼司～BEYOND THE AVERAGE」

「この物語は、ごくごく普通のサラリーマン・安部礼司がトレンドの荒波に揉まれる姿とそれでも前向きに生きる姿を描いた勇氣と成長のコメディである。」

音楽とラジオドラマが一緒になったものです。これもいつの間にかシーズン15になり、独身だった安部礼司は結婚し、2児の父となりました。安部礼司は「アベレージ平均」、部長は大馬鹿門 口癖が「オオバカモン」等、個性的な名前が多く、私は刈谷勇「スーパーイケリーマン」のファンでキャリアです。この番組も考える仕事には向きません。本当に多彩なゲスト、声優、ミュージシャン等がドラマに出演しています。

(10月号につづく)



## YBCラジオ「ドクターアドバイスで きょうも元気」ラジオ出演体験記

### • YBCラジオ 収録記

鶴岡市立荘内病院 麻酔科 菊池 元

「メディアでの宣伝効果は新聞が一番いいよ」都内で開業し成功された先生の講演での一節である。テレビやラジオは瞬間的には患者が増えるが持続性がなく、総合的には新聞が一番良いというお話であった。開業するつもりもないが「なるほど、そういうものか」と聞いていた。

長野県の病院に勤めているときに医師会主催のテレビ番組への出演を依頼された。もともとあがり症で人前に出るのが苦手であり、全く気は進まなかったがペインクリニックの普及活動を期待されている一員として、しぶしぶ引き受けることになった。事前準備が大変で、字数制限の厳しい原稿作成を依頼され、医学的な用語の使用も制限があり、思っていた以上に面倒ですでに後悔していた。それでも本番は収録なので、ある程度の失敗はうまく編集してくれるものと思っていたが、当日伝えられたのは、スタジオの予定が厳しいため時間内に必ず終わること、なるべく手元（原稿）を見ているのではなくカメラ目線で話すこと、NGを出しても撮り直しはしないからそのまま話し続けるように、とのことであった。やり直しのきかない状況というのは全くの想定外であった。人は想定外の事態には弱いもの、完全にペースが崩れた。がちがちの状態でも原稿を棒読みしたことを覚えているがそれ以外はあまり記憶に残っていない。テレビ放送後、通院中の患者からの反響はいくらかあったが新患はさほど増えなかった。つまりはそれなりの出来だったのだろう。宣伝効果にはメディア媒体が何かよりも「映り方」が大

切なのだ。恥ずかしいので自分は一度もその放送を見ていない。

さて、今回YBCラジオ『ドクターアドバイスで今日も元気』への出演のお話を頂いた。上記の苦い経験があり、当然ながら断固「お断り」だ。しかし、話をくれた当院の事業管理者はなかなかの強面でNoといえる隙がない、本人は丁寧に頼んでいるのかもしれないが受けとる側としてはほぼパワハラだ（※迫力があるということ、悪い意味はありません）。人は権力に弱いもの、しかたなく引き受けることになってしまった。

とは言いながら、内心今回はラジオだとタカをくくっていた部分がある。テレビと違って「映り」を意識しなくてよいし、きっと原稿を丸読みすればいいのだろうと。浅はかな考えだったと思う。

まずテレビの時と違って事前準備がほとんどないことに驚いた。原稿作成の依頼もない。何のテーマで話をするか大まかに聞かれたくらいだ。きっと当日に綿密な打ち合わせがあるのだろうと思っていた。

当日、入り口でディレクターの加藤さんに迎えてもらった。とても気さくな方で緊張がほぐれた。しかし、想定していた綿密な打ち合わせはなかった。何となく「こんな話をしましょうか」程度の話を雑談交えながら数分行い、「とりあえず一回月曜日の分を録ってみましょう」と簡単なノリで本番になった。原稿はない、ほぼアドリブ。出ました私の苦手な「想定外」。

しかし、それよりも緊張を高めた不測の事態は、アナウンサーの牛島さんが大変お美しい方だったということだ。失礼ながらお相手いただくアナウンサーの方はもっと年配の方を想定していた。昔から美人を相手にすると緊張する。人前で話をするという緊張に関してはいくらか準備していたつもりではあったが、初対面の美人と会話をするという緊張は全くの想定外である。人は想定外の事態には弱いもの、完全にペースが崩れた。いろいろなこととお話したということは覚えている。しかし、打ち合わせの中での雑談だったのか、実際に収録では何と話したのか、突然振られた質問にどう答えたのか、やっぱりよく覚えていない。慣れないことはするものではないなと思いながら帰宅したの

はテレビの時と同じだ。恥ずかしいから放送は聞かないだろう。

私の愚かな体験記は何も参考にならないでしょうが、医師会の先生方におかれましては、この番組への出演依頼があればぜひ快諾してください（ディレクターの加藤さんから頼まれました、先生方よろしく申し上げます）。美人なアナウンサーと会話をするだけの簡単なお仕事です。普段の診療と異なることにチャレンジすることでの人生経験、社会勉強、気分転換などプラス効果も多々あることでしょう。私のような小心者にはただの試練でしたが……。

今回の放送後は、私の外来患者は増えるでしょうか？

## 鶴岡准看護学院オープンキャンパス

日時：令和2年8月1日(土) 9:00～  
場所：鶴岡准看護学院

新型コロナウイルス感染症の感染対策として、今年度はオープンキャンパスの時間を短縮し、規模も縮小して開催しました。学内実習体験や在校生とのフリートークは行わず、講堂で学院の概要説明をしたのち、学院の施設見学と教員の個別相談を行いました。

オープンキャンパスには、高校生10名、社会人6名、保護者1名、計17名が参加されました。はじめに、スライドを用いながら学院の概要やカリキュラム、年間行事、学校生活など准看護師の受験資格を得るまでの過程を説明し、その後、施設見学を行いました。実習室には、成人のモデル人形やベビー人形を配置し、実際に触れていただきました。最後にアンケートを記入してもらい、質問のある方には教員が個別に対応しました。勉強や仕事の事、子育てをしながらの生活など様々な質問が寄せられました。アンケートにも皆さんから多くの感想を寄せていただきましたので、いくつかご紹介したいと思います。

10月10日(土)も開催を予定しています。今後も充実したオープンキャンパスの開催に努めていきたいと思っています。

### ～アンケートの感想～

- 学校の特徴やどのような授業、実習を行っているのかが分かり、進路の決定に役立たせたいと思いました。(高校生、女性)
- 知りたいことも聞くことが出来たので、来てよかったと思います。学院の雰囲気も知ることができよかったです。(20代、女性)
- このような状況の中、オープンキャンパスの場を設けていただき、大変ありがたく思います。(30代、女性)



## 「市民研究会」へのご理解と協力の願い

黒羽根 洋司

6月9日、地元紙は一斉に「鶴岡の医療を守る市民研究会」（以下、研究会）の発足を報じた。医療関係者や鶴岡商工会議所、同青年会議所、鶴岡市議会の各会派の市議ら13名が参加した会の主旨が、将来の地域医療体制の在り方を考えていくものであることも伝えていた。

しかし、唐突感は否めず当地区会員から疑義の声が挙がった（本会報8月号）のも当然といえば当然である。そこで、発起人の一人として研究会誕生のいきさつと経過などを語る紙数を頂戴することにした。

### 1. 研究会発足を促したもの

鶴岡の地域医療が危惧すべき状況にあるという認識がある。この胸騒ぎの一つは、市内の病院地図の急激な変容ぶりにある。民間病院二つが診療形態を変え、鶴岡協立病院も看護師不足により今年4月から一病棟の削減を余儀なくされた。

言うまでもなく、病院は超急性期、急性期、慢性期、回復期といった機能をそれぞれの得意分野を活かし連携しながら地域住民の健康を守ってきた。しかし、当地の基幹病院である市立荘内病院の後方支援体制が大きく揺らぎ、今後の医療提供に暗い影を落としている。

地域医療が「発展なき衰退」に加速していくのではという漠とした不安は、医療従事者の質的、量的な先細り感にも由来する。医師（開業医、勤務医を問わず）の高齢化が進み、後継者

も不足し、次代を担う医師の育成・確保もうまくいっているとは思えない。

看護師をはじめとした医療職および介護職に目を転ずれば、不足を補うため募集しても集まらない状況が続いている。地元在住の“限られたパイ”を奪い合う、という暗澹たる姿がここでも見えはしないだろうか。

### 2. 研究会発足から市民講座開設へ

今ここにある医療危機の改革は、誰かがやらなければならない仕事であり、それも先送りする時間的な猶予があまりない事業である。

こぞって現状を正直に語り、これからの活路を見出すには、全市民からの理解が不可欠である。市を運営する行政、問題提起をする役割を持つ市議員、市の活性化を担う実業人など現状を憂え、志しを同じくする人はすべからず知り、出来ることから改革をすすめてもらわなければならない。

こうして私たちは、問題意識を共有する場・発足の会を経て、6月29日第1回目の市民講座を開催した。「瀬戸際に立つ鶴岡地区 地域医療体制を考える～医療崩壊を打開するために～」をテーマに4名の講師がオンラインを含む約90人の参加者に講演を行った。

本文が掲載される頃には第3回の講座を終えているが、それぞれの内容については勿論、得られた果実と今後の方向性などを提示する機会があることを願ってやまない。

## Introduction

## 研修医

今日までそして明日から

鶴岡市立荘内病院研修医 1 年目 栢原 一洋



この度、広報誌に掲載していただくことになった大阪府出身、27歳になります、研修医一年目の栢原一洋と申します。この鶴岡の地に来て、約4ヶ月程が経ちますが、あつという間だ

な…という思いです。

大学を卒業し、大学病院にいてはなんとなく、自分は動ける医師になれないのではないかと等と思ひ（大学病院という環境が自分に合わない気がした、という意味です）、また、環境を変えて、知らない土地に飛び込んで、2年間を過ごしてみたいと気持ちがあり、大学の先輩が荘内病院で研修していたこともきっかけで、この庄内にやってまいりました。

4月頃は右も左もわからないまま、緊張し、あまりうまく立ち回れていなかった私も、少しずつ出来る事が増えてきて、もちろん皆さんの助けがあってこそではあるけれども、それが純粹に嬉しく思っている今日この頃です。（ややホームシックにもなっていますが）

ER研修では研修医にたくさんファーストタッチをさせていただく機会があり、自分なりに考えているが、こう見えて意外と慎重派な私は、今ひとつ前が出る事ができず、勉強に励んでいる毎日であります。皆さん、頑張りますのでご指導よろしくお願い致します！

さてこの鶴岡に来て思うことは、人が優しい

ということと、飯が美味しいという事です。

もちろん、都会に比べて娯楽施設がなく、若者の集うような場所はないかもしれませんが、研修を行う上では良い環境だなと思ひながら毎日を送っています。

高校一年生よりバンドを始め、大学六年生まで音楽に没頭しておりました。大学時代の部活動はかけがえのない思い出です。コピーバンドではありますが北陸で2位になった事は最高の思い出です。優勝したかったなあ笑

～をやろう！という四人、もしくは五人集まりバンドをできてしまう環境が、素晴らしい物だったのだなと今感じております。時を戻る事はできませんので、最近はおコギを買ってあまりしてこなかった作曲の勉強などもしたいな～なんて思ひながらも、まだおコギは買っていません。おそらく弾けるので、もし鶴岡で披露する機会があるならば一度観に来てください！

長々と書いてきましたが、鶴岡にはお気に入りのお店があります。その名もしんとり。薄暗い雰囲気、中にはまるでここはスタジオか？と思うようなセットが組まれており、見るだけで、居るだけで落ち着いてしまう様な場所です。是非みなさん、一度足を運んでみてください。

最後になりますが、誰にでも出来る事を誰も出来ないくらいやる、というモットーの元、2年間働きます。よろしくお願い致します。



## 表 紙

「内川端 羽黒トンボの  
ハートマーク」

真家 興隆

羽黒トンボはミズトンボ科の大型トンボである。東北・関東のあちこちに発生するが、内川にも7月から8月にかけて沢山出現する。このトンボ、他のトンボ一般と違って、蝶のようにヒラヒラと飛ぶのが特徴である。真黒な羽根の大型トンボが、群れをなして川面に舞い遊ぶ姿は鶴岡の夏の風物詩であろう。川端に目をやると、あちらこちら、このトンボ達の作るハートマークが見つかる。(2020.8.1,内川で撮影)

## 編 集 後 記

9月に入ってもまだまだ暑苦しい日々が続いております。皆様いかがお過ごしでしょうか。

今年初め頃より始まったコロナ騒動は収まる気配はなくますます猛威を振っています。皆様も様々な苦労があるかと存じます。今年1月ごろには「4月頃には収まるでしょ」と考えていましたが、全く収まらず、4月頃は「まー夏には収まるかな?」と思っていましたら現在猛威をふるっております。

思い起こせばSARSが日本に入ってきたころは大学病院に勤務していたため、マニュアルがあり、それに従って行動をしていれば良かった。しかし開業していると、情報は自分で取得せねばならず、私はどうしても情報に振り回されてしまいます。

またコロナ禍の中の生活は窮屈を感じる事が多くあります。しかしいくつかは楽になった点もあり(恐縮ですが…)その内の一つは現在多くの移動を必要とする事がオンラインに変更になり、その中で学会もオンラインがメインとなってきました。


移動がなくなった事でこれは大変楽になり、遠い関西・九州・東京に出向かなくても、講義が聞けるのは、はっきり言ってとっても楽で田舎に住んでいる私にとっては経済的です。またオンデマンドもついていますので、同時に発表されていたものが後で聞くこともでき大変有用かと思えます。オンラインなので講演の中食事もでき、アイスを食べながら講義を聴いていると、少し得をした気分になります。今後もオンライン開催が良いなと思う反面、オンラインのため移動をしなくなったことで交通機関は苦境であり、また会場も借り手がなくなっている事でしょう。今後コロナに適応した安定した生活が早く戻ってくればいいな、と思えます。

(木根淵 智子)

編集委員：渡邊秀平・小野俊孝・吉田 宏・木根淵智子・菅原真樹・中目哲平

発行所：一般社団法人鶴岡地区医師会 山形県鶴岡市馬場町1-34

TEL 0235-22-0136 FAX 0235-25-0772 E-mail ishikai@tsuruoka-med.jp

ホームページにも掲載しております  URL <http://www.tsuruoka-med.jp>